

★ 豆類の吸実性カメムシ類に注意！！ ★

ほ場調査での発生量および予察灯、フェロモントラップでの誘殺数が近年より多くなっています。今後の発生に注意してください。

発生状況

- (1) 8月中旬に行った黒大豆の巡回調査では、寄生株率は4.0%（平年1.2%）、25株当の虫数は1.4頭（平年0.5頭）と平年比多い。
- (2) 8月中旬に行ったアズキの巡回調査では、発生を認めていない（平年並）。
- (3) アオクサカメムシの予察灯（60W）への誘殺数（7月第4半旬～8月第3半旬の合計）は、京田辺市で誘殺を認めず（平年並）（平年:0.3頭）、亀岡市で4頭（平年:1.0頭）と平年比多く、京丹後市で1頭（平年:0.3頭）と平年比やや多い。
- (4) イチモンジカメムシの予察灯（60W）への誘殺数（同上）は、京田辺市で4頭（平年:0.6頭）、亀岡市で8頭（平年:1.9頭）、京丹後市14頭（平年:0.4頭）と平年比多い。
- (5) イチモンジカメムシの予察灯（BL）への誘殺数（同上）は、京田辺市で2頭（平年:2.3頭）と平年並、亀岡市で6頭（平年:2.5頭）と平年比多く、京丹後市1頭（平年:2.7頭）と平年並。
- (6) イチモンジカメムシのフェロモントラップへの誘殺数（同上）は、13.3頭（例年:10.9頭）と例年比やや多い。
- (7) ホソヘリカメムシのフェロモントラップへの誘殺数（同上）は、京田辺市で23.3頭（例年:43.4頭）と例年比やや少なく、亀岡市で76.4頭（平年:17.4頭）と平年比多く、京丹後市と73.7頭（例年:24.8頭）と例年比多い。
- (8) ミナミアオカメムシの予察灯（60W）への誘殺数（同上）は、京田辺市で15頭（平年:3.9頭）と平年比多く、亀岡市で4頭（平年:0.8頭）と平年比やや多く、京丹後市で誘殺を認めていない（平年並）（平年:0.0頭）。
- (9) ミナミアオカメムシの予察灯（BL）への誘殺数（同上）は、京田辺市で27頭（平年:6.1頭）、亀岡市で6頭（平年:0.6頭）と平年比多く、京丹後市で誘殺を認めていない（平年並）（平年:0.0頭）。
- (10) 8月22日発表の大阪管区气象台発表の1か月予報では、向こう1か月の気温は平年比高いと予想され、今後も吸実性カメムシ類の増殖や活動に好適な気象条件が続くと予想される。



写真1 アオクサカメムシ成虫
(触覚第3、4、5節が黒色)



写真2 ミナミアオカメムシ成虫
(触覚第3、4、5節が褐色)



写真3 イチモンジカメムシ成虫



写真4 ホソヘリカメムシ成虫

防除上の留意事項

- (1) クズやレンゲ等の雑草が自生する場所は好適な発生地となりやすく、このような場所が周辺にある場合は、カメムシ類の被害を受けやすい。
- (2) 開花期直前から着莢期に成虫が飛来し、吸汁や産卵をする。成虫は好適な餌がある場所を求めて移動するが、幼虫はそのまま滞在し、黄熟期まで加害し続ける。
- (3) 黒大豆における吸実性カメムシ類の防除適期は着莢期から子実肥大中期である。着莢期から約10日間隔で2～3回薬剤防除を実施する。
- (4) アズキにおける吸実性カメムシ類の防除は開花期直前から約10日間隔で2～4回実施する。
- (5) 薬剤散布の際は、薬剤が莢によくかかるよう丁寧に散布する。

農薬の使用に当たっては、ラベルおよび最新の使用方法や注意事項を確認してください。また、各薬剤の使用回数を守るとともに、同一成分を含む農薬の総使用回数についても注意してください。